

Press Release:2012.6.22

アプローチ : approach

明界 要介 展

2012年7月17日(火) — 7月29日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊



【画像01】 《rayout drawing on space》 2012 マスキングテープ 可変

「Alive And」展 2012 room A. / 大阪

ご案内

Gallery PARC[グランマール ギャラリー・パルク]では、京都の文化・創造活動の更なる活性化への支援のひとつとして、多くの芸術系大学への会場提供によって展覧会やイベントを開催する「PARC_美術・芸術系大学サポートプログラム」に取り組んでおり、本展「アプローチ:approach 明界 要介 展」は、成安造形大学のコーディネートによる展覧会です。

「物事の関係性に興味があり、それら一連が構成する空間・状況・環境を『間』と捉えています」とする明界要介(みょうかい・ようすけ / 1982~)は、空間の持つ特性に合わせたインスタレーションに取り組んでいます。しかし、その作品は空間に表現を沿わせ・一時的にでも固定化するものではなく、空間を受け入れ、また空間に働きかけることにより起こる「変化」を取り込んだものとして展開します。

「その影響・連鎖の断面から一編の結果(カタチ)を見いだします」として、空間・素材・表現・思考・時間など、場を満たす様々な要素をベクトル(相互に影響・干渉しあう働き)としてイメージし、それらの関わりが作る一瞬の「関係」をカタチとして切り出して見せるかのようです。

その作品は「不定形」ながらも、そこに何らかの「共有」を生みだし、鑑賞者の想像によりさらに広がりを持つようでもあります。本展では近年に明界が取り組んでいるマスキングテープや養生テープを用いたインスタレーションとともに、建築や建具などにアクセスした作品を展開します。

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

Press Release:2012.6.22

アプローチ: approach

明界 要介 展

2012年7月17日(火) — 7月29日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊



【画像02】 「re - さらに -a piece of textile wastes-」 2012 繊維廃材 1200×4000×3000mm

【FUKUSHIMA ART プロジェクト】x(福島∞京都)展 2012 元・立誠小学校 / 京都

展覧会名 アプローチ: approach 明界 要介 展

作家 明界 要介(みょうかい・ようすけ)

会期 2012年7月17日(火) — 7月29日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊

コーディネート 成安造形大学

協力 ギャラリー・パルク

会場 Gallery PARC(グランマーブル ギャラリー・パルク)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ]店舗内2階

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com 【HP】http://www.galleryparc.com

料金 無料

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分
三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

展示内容 【インスタレーション】

マスキングテープなどを用い、空間に見いだした状況やカタチを留めていくインスタレーションを中心に構成。

お問い合わせ: Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル[ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 2F

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

Press Release:2012.6.22

アプローチ: approach

明界 要介 展

2012年7月17日(火) — 7月29日(日) 11:00~19:00 ※最終日18:00まで・月曜休廊

明界 要介 MYOUKAI Yousuke

【作家略歴】

1982 大阪府生まれ

2005 成安造形大学 デザイン科住環境デザインクラス卒業

2006 成安造形大学 造形美術科構想表現クラス研究生終了

【おもな展覧会】

2012 「収納の部屋」 room A. / 大阪

2011 「基準の考察II」 room A. / 大阪

2010 「基準の考察」 room A. / 大阪

2009 「明界要介 作品展」 room A. / 大阪

「明界要介 展」 room A. / 大阪

グループ展

2012 「Emotion Release :reprise エモーション・リリース:リブリーズ」
ギャラリーアートサイト / 滋賀

・ [FUKUSHIMA ART プロジェクト]x(福島 ∞ 京都)展
元・立誠小学校 / 京都

・ 「Alive And」 room A. / 大阪

・ 「外の部屋 池田慎×明界要介」 2kwgallery / 大阪

2011 「第6回 湖族の郷アートプロジェクト」 大津市堅田周辺 / 滋賀

・ 「pilot plant 一昭和は遠くなりけり」CAS, room A. / 大阪

2010 「第5回 湖族の郷アートプロジェクト」 大津市堅田周辺 / 滋賀

・ 「IWAKI ART トリエンナーレ」 いわき市 / 福島県

・ 「pp.22-23」 room A. / 大阪

・ 「10ページから15ページへとぶ」 room A. / 大阪

2009 「エモーション・リリース」 ギャラリーアートサイト / 滋賀

・ 「第4回 湖族の郷アートプロジェクト」 大津市堅田周辺 / 滋賀

・ 「町屋全開! -現代アートのコロンブスたち展」

ポータルレス・アートミュージアム NO-MA / 滋賀

・ 「room A. OPENING EXHIBITION」 room A. / 大阪

2007 「100mArts -通り抜け-」 中津商店街 / 大阪

2006 「第1回 湖族の郷アートプロジェクト」 大津市堅田周辺 / 滋賀

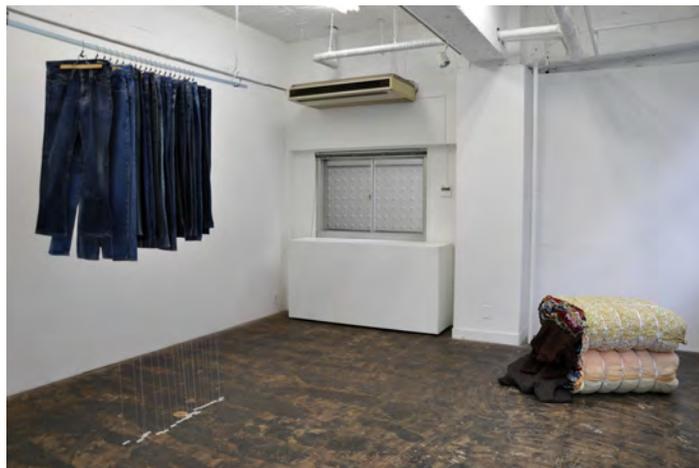
2005 「semba art walk ビルの隙間で逢いたい」 船場センタービル周辺 / 大阪

【展覧会について】

今回の展示では、近作で注目している「仮設的に空間に働きかけること」を中心に展示を行いたいと思います。

このことは、いわゆるインスタレーションを指したものではありませんが、私の考えるそれは、必要以上の装飾性・表現性を排し、あるいは必要と思える装飾性・表現性を残しながら、然るべきカタチ・配置・構成を探る行為であり、その考察と結果でもあります。

また、空間の持つ場所性や時間変化に対して即興的に対応(影響・関係)し、作品の素材・ボリューム、内容やタイミングをコントロール(選択)することで、必要なことを必要なだけ必要なタイミングで表現できるのではないかと考え、そのカタチに「変化の可能性」を持たせることで、そこに思考や想像を膨らませる余地を持たせることができるのではないかと考えます。



【画像03】 右: 《re - 再び - a piece of textile wastes-》 2012 繊維廃材 700×700×1200mm
左: 《tacking on space》 2012 繊維廃材、糸 サイズ可変

「収納の部屋」展 2012 room A. / 大阪

【statement】

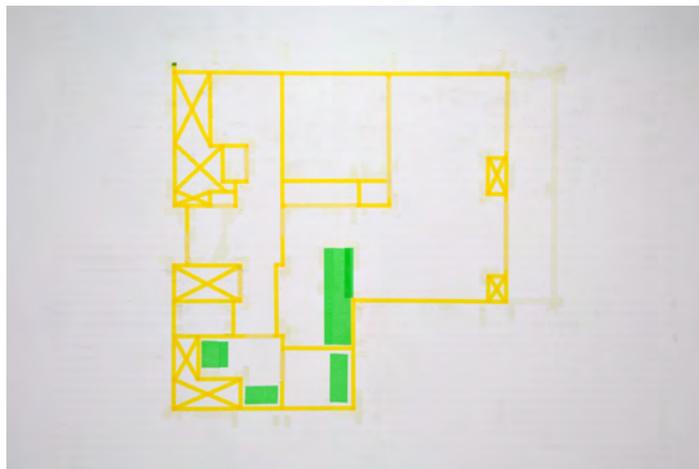
物事の関係性に興味があり、それら一連が構成する空間・状況・環境を「間」と捉えます。

その要素は有形・無形と様々ですがいずれも小さなベクトルであり、その変化は他の物事に影響を与えながら連鎖し、無数の小さなベクトルが大きな波となって、ひとつの球のようになるイメージを持ちます。

そして、その影響・連鎖の断面から一編の結果(カタチ)を見いだします。

制作に用いるものはそれまでの私の選択の結果、必然的に出会いを得たものであり、そのひとつひとつを解釈し、「間」として再構成をおこなうことで、展示・発表・鑑賞の過程に新たな関係を築くものとして提示します。

表現を自己から発する固定化したものとして定着させるのではなく、人・選択・意志・思考・場所・空間・時間など様々な物事と関係しながら制作を行なうことで、全貌の見えない「球」について、ある切り口をもって理解し、考察を行います。



【画像04】 《space drawing on space》 2012 マスキングテープ、養生テープ 1000×1000mm

「外の部屋 池田慎×明界要介」展 2012 2kwgallery / 大阪